

古屋輝夫 尺八 リサイタル

＜土井啓輔作品集Ⅲ＞

2024年12月6日（金）午後1時半開演（1時開場）

会場／上野奏楽堂（旧東京音楽学校奏楽堂）

ごあいさつ

本日は、お忙しい中また遠いところをお運びいただき真に有難うございます。
心よりお礼申し上げます。

“自己表現”という言葉があります。人は誰でも自己表現をしたい。では自分にはどんな方法が？ 運動音痴のわが身に運動系は×。学問は、絵は、書は、詩は、文は……色々触ってみてどれも×。 そんな時、横山勝也先生の演奏に接しました。会場全体を包み込む響き、凄まじい音圧、・・・それにも増して私が惹きつけられたのは、語りかけ訴えかけてくる音の連なりでした。後に先生はその事を〈うた〉という言葉で表現しておられました。自分にとっては自己表現の方法と巡り合えた瞬間でした。

何故かはわかりませんが、旋律〈節〉と向かい合っていると、節が「こんな風に吹いて欲しい！」と語りかけてきます〈ただの妄想かもしれませんが〉。その語りかけに向き合うのはとても楽しい作業で、実際の音に出来た時には、自分にとってはこれが求めていた“自己表現”への道なんだと感じ、幸せです。ところで、尺八という楽器は手孔は五つしかなく、出やすい音、出にくい音が混在しており、無造作に吹けば楽器なりの節にしかなり得ず、前述の「こんな風に吹いて欲しい！」という要求にこたえるのは大困難で、それゆえの配慮と技術が不可欠です。その啓蒙がこれからの夢の一つです。

とはいえ、近年は年齢なりに身体のおちこちに衰えが出始めて困っています。とりわけ、左耳が聴きづらく、且つ妙な響きに聞こえるのは問題です。何とか対処できる間は頑張ろうと思っています。

さて今日は、標題のように土井啓輔氏の作品集です。氏の作品は心惹かれ、癖になる旋律〈うた〉に溢れています。10年前に「夢二 MODAN」、「幻月詩」と2枚のCDに12曲を収録しました。今回は3枚目のCDの発売記念演奏にと思っていたのですが録音にまで至りませんでした。CD化にはもう暫くお時間を頂きます。今日は先ず今回の曲の音たちの魅力をお耳に、お心に、お届けすべく頑張ります。

最後になりましたが、作曲の土井様、本日ご賛助くださいました大西様、山路様、本間先生とアンサンブル・レファール様の皆様、友情出演として門下生のみならず一緒に演奏するのが楽しいからと参集してくれた仲間達、各方面でお教を賜ります諸先生、いつも私を支え励ましてくれる友人、また門下の人達に、この場をお借りして心からの感謝を捧げます。

古屋輝夫

演奏曲目

水龍吟 すいりゅうぎん <改編初演> 土井啓輔 作曲 (2024年 古屋委嘱)
尺八1：古屋輝夫(1.6/1.8) 尺八2：田畑智史(1.8) 尺八3：今井祐介(2.7)

現代邦楽《響》という演奏会(2024.4/5)での委嘱初演曲に「水龍吟～五人の勇氣ある尺八奏者による～」(2024年 古屋輝夫委嘱)がある。その解説文は次の通りである。

<中国文学に、漢文や唐詩、元曲などとならんで、宋代に隆盛をきわめた韻文で宋词がある。今回の曲は数ある作品のなかで、王沂孫(南宋末期の人)の「水龍吟」をもとに作曲したものである。「水龍吟」とあるが、これは宋词の形式の名称なので残念ながらファンタジックな「水」も「龍」も「吟」も登場してこない。

そして、本来宋词は叙情的な歌曲であるが、この詞では、元の侵攻を受け、滅びゆく祖国を目の前にし、その亡国の悲哀を「枯葉」をテーマに綿々と綴っている。詩人は南宋が滅亡した後、遺民として生き長らえた。破砕されゆく国を目の当たりにしながらも、本来の美しい山河を心に思いつつ過ごした詩人の心を、五人の勇氣ある尺八演奏家の方々に託す。(土井啓輔) >

この5重奏曲を演奏している時、曲のうねりに3重奏の匂いを感じ続けていた。

土井氏に3重奏への改編をお願いしてみようと思いついた所以である。(古屋輝夫)

孤龍四章 こりゅうししょう 土井啓輔 作詞・作曲 (2021年「Den3」委嘱)
大西瑞香(三絃、唄) 山路みほ(箏) 古屋輝夫(尺八)

源平合戦において「源義経」は平氏滅亡の立役者である。がそれゆえ、兄・源頼朝に疎んじられ攻められ、奥州平泉にて自刃を遂げる。この物語は歌舞伎、能楽、琵琶曲など、多くの芸能において演じられ、そのヒロイックな生涯が義経を「孤龍」と呼ばしめた。今回の曲は、その短くも壮絶な人生の中の有名な四場面を切り取って、箏、三味線と歌、尺八のいわゆる三曲合奏のスタイルで作曲したものである。

- 1 Tokiwa／平治の乱の後、清盛から追われた常盤御前が、大和国(奈良)に向かって、雪の中を3人の息子と共に逃避行をする。この時、牛若(義経)は常盤の胸に抱かれる乳飲み子であった。
- 2 Ichi-No-Tani／源義経と範頼の軍が、生田の森から須磨に陣営を構える平家の軍を破ったのが、一ノ谷の戦いであるが、特に搦手から攻める義経の鶴越の奇襲が有名である。ここでは、もう一つの有名なストーリー平敦盛の笛がテーマ。
- 3 Dan-No-Ura／言わずと知れた「壇の浦の戦い」源平の戦いで雌雄を決する最終決戦。あわれ安徳天皇が西海の波に消えていく場面は涙を誘う。ここに平氏一門は滅びることとなる。
- 4 Koromogawa／源平合戦後、源頼朝の不興をかった義経はその身を追われ、逃れ逃れて奥州藤原氏を頼るが、頼朝の圧力に耐えかねた藤原泰衡に急襲され衣川の館にて、討死をする。短くも悲劇的なその生涯はその後も「義経記」などで語り継がれる。最終楽章は変拍子の混用により複雑に盛り上がる。

<歌詞>

I Tokiwa

白雪を踏み分く 音もあはれなり 往く山道は 大和路の
幼子の泣く声悲し 母(ハワ)の胸 止まざる雪にも 春こそ遠けれ

II Ichi-No-Tani

ものの心の 若き命とかふ笛の 声もはかなき 小枝(サエ)の竹
遠音さしたり 須磨の戦さ場

III Dan-No-Ura

西海の船影 あまた幾千の 海峡震わす 天下の乱
鳳蝶(アゲハ)は飛ばず 幼帝の御魂 浪に消えにけり

IV Koromogawa

逃れ来て 北国(ホッコク)に孤龍の命 散りしかど
その名は残りぬ 衣川の館

— 休憩 15分 —

尺八組歌 **嘯風吟** しょうふうぎん 土井啓輔 作詞・作曲 (2020 古屋委嘱)
古屋輝夫 (尺八 2尺3寸、声)

“風吹かぬなら吹いて参ろう”の心持ち。吹いては謡(うた)い。謡っては吹く。
ないまぜに、四季を彩る音たち。
季節の風を頬にうけながら、その風に嘯(うそぶ)く。

(春) 面白(おもしろ)や 竹の音(ね)真似(まね)ぶ 鶯(うぐいす)に
負けじと吹かむ 虚無(こむ)の笛
また来る明日(あす)も 無きと思へば

(夏) 眉月(まゆづき)の やうやう落ちゆく 西の方(かた)
恋草(こいぐさ)の 思ひも乱るる 雨後(うご)の庭
竹風(ちくふう)立ちぬ 夏の宵(よい)

(秋) 吹く風に嘯(うそぶ)く 秋の暮方(くれがた)に
浮く朧月(ろうげつ)は薄曇(うすぐも)り
野分(のわけ)の後(あと)に残る風
なお荒らかりけり

(冬) 降る雪に 松風寒し 草枕
吹くや春呼(はる)ぶ 竹の一節(ひとふし)
吹くや春呼(はる)ぶ 竹の一節(ひとふし)

竹と声のための今様 二つの桜愁詩 おうしゅうし 土井啓輔 作詞・作曲

指揮：田畑智史、

尺八ソロ 1：古屋輝夫 尺八ソロ 2：島津和人

女声 1：虎竹栄美 野村貴子 女声 2：新井由美子 望月敦子 柳田典子

男声：本間 充

尺八 1；伊藤恵三 岩本みち子 尾柳幸彦

尺八 2；今井祐介 寺島和彦 原田真理子

尺八 3；イオ・パヴェル 清水信行 竹内一裕 山路みほ

尺八 4；池上直斗 江守伊三男 齋藤 昇 渡邊大地

2019年夏、岡山県の美星町で、国際尺八研修館創立30周年記念国際尺八フェスティバルが開催されましたが、その記念曲として作曲され、8月31日のメインコンサートで初演されました。

一つ目の桜の物語は、

岡山県天然記念物にも指定されている八重咲きの宗堂桜ですが、悲しい伝説が伝わっています。江戸時代ここには妙泉寺という寺がありました。その住職の日鏡は町民武士を問わぬ多くの人に敬愛を受けていました。時の為政者としては見過ごせず、日鏡を城へ呼び寄せ毒を盛りました。日鏡は瀕死の中、日頃から愛でていた花を一目見たいと早駕籠で寺へ帰り、桜の下で息を引き取りました。花は日鏡の死を嘆き満開にならぬままに散ってしまいました。それは今も変わらないという事です。

二つ目の桜の物語は、

忠義桜のお話です。少しお歳を召された方ならば「天 勾踐（てんこうせん）を空（むな）しうするなかれ 時に范蠡（はんらい）なきにしも非ず。」という漢詩を聞かれたことがあるのではないのでしょうか。南北朝の時代、児島高德が、隠岐の島に流される後醍醐天皇を途中で救出しようと幾度も試みながら果たせず、院庄にあった最後の宿泊所の庭の桜の木の幹を削り前の漢詩を書き残しました。これはここに貴方をお救いしようとする忠臣がおります。暫く我慢をお願いします、といった意味なのですが、護送の役人たちは何のことやら分からず、中国文化にも明るい後醍醐天皇だけが意を悟りにっこり微笑まれた、と伝えられています。その桜は忠義桜といわれ、津山市院庄（いんのしょう）の作楽（さくら）神社にあったと言われています。

プロフィール

土井啓輔（どいけいすけ／作曲、作詞）

岡山県出身。幼少より、祖母、母に吟詠の徹底的な稽古を受け、後に尺八を手にする。上京後、小野正童師、横山勝也師に師事、尺八奏者となる。和太鼓の林英哲をはじめ、内外の様々な音楽家と共演する。クロード・ロジェ師にジャズ作編曲、インプロビゼーションを学ぶ。後にクラシック作曲を学び、作曲活動を開始する。磨赤兒率いる舞踏集団「大駱駝艦」の音楽を長年に渡って手がけている他、邦楽作品として、尺八家古屋輝夫氏、箏曲家大西瑞香氏、丸田美紀氏等よりの委嘱作品など多数。近年、岡山県津山市に移住。母、土井白鳳の跡を継ぎ、白鳳流金烏吟詠会会長を継承。さまざまな音楽活動を続けている。

大西瑞香（おおにしみずか／三絃、唄）

古典箏曲と地歌三味線を菊原初子（人間国宝）、現代箏曲を沢井忠夫に師事。NHK 邦楽オーディションに箏と歌の両部門で合格し、古典箏曲や現代邦楽で NHK 邦楽番組に出演。国内外での演奏や洋楽器とのコラボレーション、伝統文化事業のプロデュースなどジャンルを超えた活動を展開するほか、近年ではアメリカでのリサイタル、フランスにおける8回のデュオリサイタルや、2020年まで毎年パリで開催されたマスタークラスでは箏の指導に当たり、国外における邦楽の普及活動も行っている。2008年米子市文化善行者表彰、2019年鳥取県文化功労賞受賞。現在、島根大学教育学部非常勤講師。米子市児童文化センター講師。

山路みほ（やまじみほ／箏）

東京藝術大学音楽学部卒業。長谷検校記念第5回全国邦楽コンクール最優秀賞をはじめ、数々のコンクールにて優勝。全国ツアー、オーストラリアツアー、ヨーロッパツアーなど、国内外にて数多くコンサートを行う。NHK教育テレビ、NHK-FMに出演。洋楽器やオーケストラ、各国の伝統楽器との共演、落語やお芝居・ミュージカルなどとの共演や作曲・編曲・音楽プロデュースなど、邦楽の枠を超えた幅広い活動を繰り広げている。2013年度文化庁文化交流使。岡山大学非常勤講師。

アンサンブル レ・ファーレ（合唱）

今回、古屋氏の声かけに応じ、指導者・本間 充（ほんまみつる）ゆかりの合唱団員や仲間編成した。

練習し始めてみたら、カッコいいオリジナルの曲ながら中々の難物で、音を取るのに四苦八苦！とりわけ苦勞な箇所を「レ・ファ・レ♪」と覚えようと工夫した。このことをシンボライズしてみたら洒落たアンサンブル名になった。なを、今回バリトンを歌う本間 充は現在89才、合唱7団体を指導している。その中の、アンサンブル和(なごみ)からはソプラノの野村貴子（のむらたかこ）、虎竹栄美（とらたけえみ）、が参加。合唱団“ラララようが”からはメゾソプラノの望月敦子（もちづきあつこ）、柳田典子（やなぎだのりこ）、新井由美子（あらいゆみこ／普段はピアノ）、が参加。なお余談ながら、古屋輝夫氏も“ラララようが”に所属中。（文責・新井由美子）

友情出演

Io Pavel (イオ・パヴェル/尺八)

尺八奏者の石川利光氏に師事。東京藝術大学大学院修了。NHK 邦楽オーディション合格。第 22 回第 25 回全国邦楽コンクール優秀賞受賞。岡山県芸術文化賞準グランプリ受賞。HP: shakuhachi.io

池上直斗 (いけがみなおと/尺八)

2015 年より現在まで NHK カルチャーセンターにて古屋先生をはじめ国際尺八研修館講師より指導を受ける。大田区三曲協会会員。

伊藤恵三 (いとうけいぞう/尺八)

1949 静岡県掛川市生まれ。1972 原沢東畝氏に師事。1980 横山蘭畝氏に師事。1989 横山勝也氏に師事。1990 岡山県美星町に移住、国際尺八研修館の講座「尺八に親しむ会」指導補佐。1997~掛川にて後進の指導。尺八本曲東海連盟理事。

今井祐介 (いまいゆうすけ/尺八)

岡山市出身。岡山芸術文化賞準グランプリ。第 53 期 NHK 邦楽技能者育成会卒。NHK 邦楽オーディション合格 8 回。高校卒業まで故桐山隆山に師事。大学上京後は古屋輝夫に師事。国際尺八研修館準講師。

岩本みち子 (いわもとみちこ/尺八)

同志社大学卒。在学中に尺八を吹き始め、平成 7 年より石川利光に師事。NHK 邦楽技能者育成会第 51 期修了。邦楽ユニット那々代表、京都三曲協会、国際尺八研修館に所属。東京都出身、神戸市在住。

江守伊三男 (えもりいさお/尺八)

東京竹心会会員。近所迷惑をかえりみず 40 年近く吹いていますがまだまだ未熟です。

尾柳幸彦 (おやなぎゆきひこ/尺八)

東京竹心会会員。昭和 49 年古屋門下生となり、休会期間を挟むも早 50 年。

齋藤 昇 (さいとうのぼる/尺八)

東京竹心会会員。昭和 46 年 大学の三曲会で尺八（都山流）を始める。就職後中断。平成 26 年 都山流入門。令和 4 年 東京竹心会入会。

島津和人 (しまづかずと/尺八)

1974 年より日本大学理工学部同好会「尺八箏曲研究会」入会と共に古屋輝夫氏に師事、現在に至る。国際尺八研修館師範。東京竹心会会員。尺八の楽しさを広めるためアンサンブル活動に取り組む。千葉市在住。

清水信行 (しみずのぶゆき/尺八)

1979 年 通産省・特許庁尺八クラブにて尺八を始める。1980 年 古屋輝夫氏に師事。東京竹心会幹事。越谷邦楽協会会友。

竹内一裕 (たけうちかずひろ/尺八)

1974年 金沢大学『琴尺八部』にて都山流尺八を始める。卒業後、横山勝也氏に師事。1995年 国際尺八研修館 師範認可。2011年 古屋輝夫氏に師事。2020年 NHK邦楽オーディション合格。虚無僧研究会会員。国際尺八研修館準講師。

田畑智史 (たばたさとし/尺八・指揮)

東京学芸大学邦楽サークル「白菊会」にて尺八を始めました。尺八を多くの人におもしろく聴いてもらうためにいろいろな活動しています。Youtubeにも動画がありますので田畑智史で検索してみてください！

寺島和彦 (てらしまかずひこ/尺八)

東京竹心会会員。東京学芸大学邦楽サークル「白菊会」にて、古屋先生と尺八に出会いました。現在は、高校の教員をしながら尺八に励んでいます。

原田真理子 (はらだまりこ/尺八)

「美星で、尺八 楽しんでます」 (美星：岡山県井原市美星町)

渡邊大地 (わたなべだいち/尺八)

2005年より古屋輝夫氏に師事・東京竹心会入会。'21 還暦記念演奏会玉響主催。'22年第8回世界尺八フェスティバルにて古典本曲の部「鶴の巣籠/奥州伝」にて1位受賞。富士見市三曲協会理事。

.....

古屋輝夫 (ふるやてるお/尺八・唄)

20歳からの42年間、横山勝也氏に師事しその音楽の総てを修得。NHK邦楽技能者育成会卒業。NHK邦楽オーディション合格。国内外リサイタル多数。国内外招待演奏またセミナー多数。とりわけ2013年から毎春パリで開催しているコンサートとマスタークラスは10回を超え継続中。現在の目標は、尺八で旋律《うた》を謳う為に不可欠な尺八吹奏法の確立。尺八古典本曲の研究・演奏・作譜。

現在/国際尺八研修館主任講師・NHK文化センター青山教室講師

いわき竹心会顧問・米子市虚空の会主宰・東京竹心会主宰・箏絃社主宰

<既刊CD>「尺八酔奏」「箏絃秘抄」「尺八古典本曲集」(I,II,III,IV)

「夢二MODAN」「幻月詩」「風動」「聲」

●古屋輝夫活動状況

<2023>

- ・3月/船川利夫を讃えて～音と山陰の風景で綴る～(米子市公会堂大ホール)
NHK邦楽技能者育成会同窓会企画「響」演奏会(豊洲シビックセンターホール)
- ・5月/創明音楽会創立55周年記念全国演奏会(国立劇場大劇場)
- ・6月/東京竹心会演奏会(すみだトリフォニーホール小ホール)
- ・7月/鳥取邦楽合奏団演奏会(米子コンベンションセンターホール小ホール)
- ・9月/桐の会こと演奏会(烏山区民会館ホール)
- ・10月/岩手三曲協会80周年記念三曲演奏会(岩手県民会館大ホール)
一公会箏曲演奏会(日本橋公会堂)

<2024>

- 3月／横山勝也門下竹心会本曲演奏会（すみだトリフォニーホール小ホール）
- 4月／NHK 邦楽技能者育成会同窓会企画「響」演奏会（豊洲シビックセンターホール）
オンラインワークショップ「声による本曲」（パリ Thorsten 主催）
- 5月／鳥取邦楽合奏団演奏会（米子コンベンションセンターホール小ホール）
- 7月／JSPN 公演「世界を旅する尺八」（豊洲シビックセンターホール）
- 9月／国際尺八研修館本曲講習会（岡山県美星町ふれあいセンター）
- 10月／いわき日本音楽クラブコンサート（いわきアリオスホール）
一公会箏曲演奏会（東京証券会館）
- 11月／桐の会こと演奏会（烏山区民会館ホール）
- 12月／古屋輝夫尺八リサイタル・土井啓輔作品集・（上野奏楽堂）

<2025 予定>

- 3月 8／トリビュート横山勝也コンサート（京都市国際交流会館イベントホール）
- 3月 17～24／ブリュッセル（大使館講習、王立教会パイプオルガンとのコラボ）
25～4月2／パリ（講習会、コンサート）
- 4月 11～25／シアトル ～テキサス（WSF2025）～ コロラド
- 6月 21／東京竹心会演奏会（すみだトリフォニーホール小ホール）
- 10月 13／綸の会 40 周年記念演奏会（米子市文化ホールメインホール）
- 10月 19／一公会箏曲演奏会（日暮里サニーホール）
- 11月 30／桐の会こと演奏会（烏山区民会館ホール）

<古屋輝夫稽古場> 〒130-0026 東京都墨田区両国 3-25-9-304
TEL 090-7242-3025 FAX 03-3635-0869
E-mail furuya108@yahoo.co.jp
<https://www.furuya108.com/>

国際尺八研修館とは『すべての流派の源流である尺八本曲を中心に、国境を越え流派を超えた研修の場所を！』と言う横山勝也師の思いに共感した岡山県美星町の協力で、旧工業高校の校舎を用いて開設され、36年を越えました。1994年開催の尺八史上初めての「美星国際尺八フェスティバル」には日本国内から200人、海外からは50人の尺八家が集まり、メインコンサートの聴衆は2000人を超えました。その興奮を持帰った世界の尺八家がそれ以後ほぼ4年毎にポルダ、東京、ニューヨーク、シドニー、京都、ロンドン、と世界の各地で国際尺八フェスティバルを開催してきました。研修館は常に企画段階からのサポートを続けています。来年春にはテキサスでの開催が予定されています。正に国際尺八研修館は古典本曲のメッカであり、美星町は世界中の尺八愛好家の憧れの故郷です。